教職に関する科目

教師論…2
教育と人間A…3
教育と人間B…4
教育心理学…5
教育関係法規…6
道徳教育の研究…7
特別活動の研究…8
生徒指導論…9
学校カウンセリング…10
地域研究(歴史)…11
障害者教育論…12
知的障害者の心理Ⅰ…13
知的障害者の心理Ⅱ…14
知的障害者教育論…15
肢体不自由者教育論Ⅰ…16
肢体不自由者教育論Ⅱ…17
視覚障害者教育総論…18

科目名	教師論	科目コード	W61001	単位数時間	2単位 30時間	対象学年	2年	開講学期	前期
区分	資格関係科目 教職資格科目　必修	担当者名	原　圭寛	授業形態	講義		単独		
授業の概要	本科目では，教職の意義とその役割について考えていく。子どもを理解するとはどういうことなのか，あるいは理想の教師とはどういうものかなど，教師としての資質及びその役割について理解を深め，教師の在り方について広く理論・実践を交えながら考察を加える。								
到達目標	1) 教師という職業の諸条件に関する知識を得る。 2) 上記を踏まえて，教師という職業が有する現代的課題に対して自身の考えを理論的に説明できる。								

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	導入	・本科目のオリエンテーション	
第2回	「教師になる」とは？	・教科書1)第1章に関する講義及びディスカッション	
第3回	教師と生徒の関係／ 「目指すべき理想の教師」	・教科書1)第2章～第3章に関する講義及びディスカッション	
第4回	教員養成と教育職員免許状	・教科書1)第4章～第5章に関する講義及びディスカッション	
第5回	「法の中で生きる教員」とは？	・教科書1)第6章に関する講義及びディスカッション	
第6回	教師の仕事とは？	・教科書1)第7章に関する講義及びディスカッション	
第7回	これまでのまとめと中間試験	・第6回までの定着度の確認	
第8回	試験解説・小括	・第6回までの内容のフォローアップ	
第9回	教師の限界／ 「想定外の事態」にも準備はできる？	・教科書1)第8章・第11章に関する講義及びディスカッション	
第10回	コンピューターに 教師の代わりはできる？	・教科書1)第10章に関する講義及びディスカッション	
第11回	保護者及び学校外部との連携	・教科書1)第13章～第14章に関する講義及びディスカッション	
第12回	現代社会に生きる10代の子ども／ 子どもの背景の多様性	・教科書1)第15章・第16章に関する講義及びディスカッション	
第13回	学び続ける教師と これからの教師の役割	・教科書1)第12章・第17章に関する講義及びディスカッション	
第14回	これまでのまとめと期末試験	・第13回までの定着度の確認	
第15回	試験解説・総括	・第13回までの内容のフォローアップ	

評価方法及び評価基準	1) 原則として，全体時間数の2/3以上の出席が求められる。また，初回及び試験実施日に出席することが求められる。 これに反した場合，評価は0点とする。 2) 評価項目及び評価の割合は以下の通りとする。 ・中間試験：40% ・期末試験：40% ・授業内の発言及びコメント：20%
教材 教科書 参考書	以下の2冊を教科書として指定するため，必ず購入のうえ出席すること。授業は下記1)に沿って行いつつ，適宜2)を参照する形で進めていく。 1) 井藤元編著. (2017).『ワークで学ぶ教職概論』. ナカニシヤ出版. [3月出版予定／ISBN未確定] 2) 眞壁宏幹編. (2016).『西洋教育思想史』. 慶應義塾大学出版会. ISBN: 978-4-7664-2327-3
留意点	・授業をただ聴いて暗記をするだけでなく，提示される問いに対して「自分ならどう考えるか」ということを常に考えながら授業に臨むこと。 また，自身の考えを積極的に発言すること。 ・講義は主にPowerPoint等を用いて行うが，スライドはWeb上で配布する。次のアドレスにアップロードするので，受講者は自身で印刷または端末にダウンロードのうえ授業に参加すること。　アドレス：https://researchmap.jp/yoshi0507/資料公開/

科目名	教育と人間Ａ (教育原理)		科目 コード	W61002	単位数 時　間	2単位 30時間	対象 学年	2年	開講 学期	前期
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	原　圭寛			授業 形態	講義		単独
	教職資格科目	必修								
授業の 概要	本科目は，これまで教育学において考察の対象となってきた教育に関する原理的な問いについて，過去に教育及び教育学研究に携わった人々がどのように考えてきたのかについての講義を行う。また，履修者間でのディスカッションを通して，履修者自身にこれらの問題について考察してもらう。									
到達 目標	1) 教育及び教育学に関する基礎的知識を身につける 2) 教育に関する問題について，多様な立場からの意見を踏まえたうえで，自身の意見を持つことができる。 3) 自身の意見を，専門的な知識を用いつつ理論的に述べることができる。									

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	導入	・本科目のオリエンテーション	
第2回	「教育」は何のためにあるのか？	・教科書1)第1章に関する講義及びディスカッション	
第3回	学校とはどのような場所なのか？(1)	・教科書1)第3章前半に関する講義及びディスカッション	
第4回	学校とはどのような場所なのか？(2)	・教科書1)第3章後半に関する講義及びディスカッション	
第5回	学校の形はひとつだけなのか？	・教科書1)第4章に関する講義及びディスカッション	
第6回	子どもとはどのような存在か？	・教科書1)第5章に関する講義及びディスカッション	
第7回	前半のまとめ・中間試験	・第6回までの到達度の確認	
第8回	試験解説・小括	・第6回までの内容のフォロー・アップ	
第9回	「伝える」とは どのようなことか？(1)	・教科書1)第9章前半に関する講義及びディスカッション	
第10回	「伝える」とは どのようなことか？(2)	・教科書1)第9章後半に関する講義及びディスカッション	
第11回	教育実践に「マニュアル」は どこまで有効か？	・教科書1)第10章に関する講義及びディスカッション	
第12回	人は「段階を追って学ぶ」 というのは本当か？	・教科書1)第11章に関する講義及びディスカッション	
第13回	なぜ勉強しなくちゃいけないの？	・教科書1)第14章に関する講義及びディスカッション	
第14回	後半のまとめ・期末試験	・第13回までの到達度の確認	
第15回	試験解説・総括	・第13回までの内容のフォロー・アップ	

評価 方法 及び 評価 基準	1) 原則として，全体時間数の2/3以上の出席が求められる。また，初回及び試験実施日に出席することが求められる。 これに反した場合，評価は0点とする。 2) 評価項目及び評価の割合は以下の通りとする。 ・中間試験：40% ・期末試験：40% ・授業内の発言及びコメント：20%
教材 教科書 参考書	以下の2冊を教科書として指定するため，必ず購入のうえ出席すること。授業は下記1)に沿って行いつつ，適宜2)を参照する形で進めていく。 1) 井藤元編著. (2015).『ワークで学ぶ教育学』. ナカニシヤ出版. ISBN: 978-4-7795-0932-2 2) 眞壁宏幹編. (2016).『西洋教育思想史』. 慶應義塾大学出版会. ISBN: 978-4-7664-2327-3
留意点	・授業をただ聴いて暗記をするだけでなく，提示される問いに対して「自分ならどう考えるか」ということを常に考えながら授業に臨むこと。 また，自身の考えを積極的に発言すること。 ・講義は主にPowerPoint等を用いて行うが，スライドはWeb上で配布する。次のアドレスにアップロードするので，受講者は自身で印刷または端末にダウンロードのうえ授業に参加すること。　アドレス：https://researchmap.jp/yoshi0507/資料公開/

科目名	教育と人間Ｂ (教育史)		科目 コード	W61003	単位数 時　間	2単位 30時間	対象 学年	2年	開講 学期	後期
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	原　圭寛			授業 形態	講義		単独
	教職資格科目	必修								
授業の 概要	本科目は，特に日本における教育の歴史についての講義を行う。また，単に講義を聴くのみでなく，履修者間でのディスカッションを通して，講義で学んだ歴史的事象の意味について考察してもらう。									
到達 目標	1) 日本の教育史に関する基礎的知識を身につける 2) 教育に関する問題について，歴史的知見や多様な立場からの意見を踏まえたうえで，自身の意見を持つことができる。 3) 自身の意見を，専門的な知識を用いつつ理論的に述べることができる。									

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	導入	・本科目のオリエンテーション	
第2回	「組織としての教育」の胎動と進展/ 近世における教育組織化の諸動向	・教科書1)第1章～第2章に関する講義及びディスカッション	
第3回	江戸時代の「学び」/ 「近代教育」の発足(1)	・教科書1)第3章～第4章に関する講義及びディスカッション	
第4回	「近代教育」の発足(2)	・教科書1)第5章～第6章に関する講義及びディスカッション	
第5回	「近代教育」の確立(1)	・教科書1)第7章～第8章に関する講義及びディスカッション	
第6回	「近代教育」の確立(2)	・教科書1)第9章～第10章に関する講義及びディスカッション	
第7回	前半のまとめ・中間試験	・第6回までの到達度の確認	
第8回	試験解説・小括	・第6回までの内容のフォロー・アップ	
第9回	「近代教育」の見直し(1)/ 「近代教育」の再編(1)	・教科書1)第11章～第12章に関する講義及びディスカッション	
第10回	「近代教育」の再編(2)	・教科書1)第13章～第14章に関する講義及びディスカッション	
第11回	「近代教育」の見直し(2)/ 「近代教育」の再興(1)	・教科書1)第15章～第16章に関する講義及びディスカッション	
第12回	「近代教育」の再興(2)	・教科書1)第17章に関する講義及びディスカッション	
第13回	「近代教育」の混迷	・教科書1)第18章に関する講義及びディスカッション	
第14回	後半のまとめ・期末試験	・第13回までの到達度の確認	
第15回	試験解説・総括	・第13回までの内容のフォロー・アップ	

評価 方法 及び 評価 基準	1) 原則として，全体時間数の2/3以上の出席が求められる。また，初回及び試験実施日に出席することが求められる。 これに反した場合，評価は0点とする。 2) 評価項目及び評価の割合は以下の通りとする。 ・中間試験：40% ・期末試験：40% ・授業内の発言及びコメント：20%
教材 教科書 参考書	以下の2冊を教科書として指定するため，必ず購入のうえ出席すること。授業は下記1)に沿って行いつつ，適宜2)を参照する形で進めていく。 1) 山本正身著. (2014).『日本教育史』. 慶應義塾大学出版会. ISBN: 978-4-7664-2131-6 2) 眞壁宏幹編. (2016).『西洋教育思想史』. 慶應義塾大学出版会. ISBN: 978-4-7664-2327-3
留意点	・授業をただ聴いて暗記をするだけでなく，提示される問いに対して「自分ならどう考えるか」ということを常に考えながら授業に臨むこと。 また，自身の考えを積極的に発言すること。 ・講義は主にPowerPoint等を用いて行うが，スライドはWeb上で配布する。次のアドレスにアップロードするので，受講者は自身で印刷または端末にダウンロードのうえ授業に参加すること。　アドレス：https://researchmap.jp/yoshi0507/資料公開/

科目名	教育心理学	科目コード	W61004	単位数時　間	2単位 30時間	対象学年	2年	開講学期	後期
区分	資格関係科目 教職資格科目　必修	担当者名	佐々木　正晴			授業形態	講義		単独
授業の概要	学習を積み重ねてはじめてひとはひとになる．学習の成立に“教育”の活動はいかに関与するのか，本講では，主に心理活動に障害を抱える事例に対する機能形成実験から学習成立の原理を探る								
到達目標	1.基本概念と語句を理解すること 2.教育と心の活動の関係性について，答えを見つけること								

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	人間関係の始まり	狼に育てられたと推定される２人の少女	
第2回	環境と機能形成	乳幼児期における実験例と環境・社会の役割理論	
第3回	心の活動の生得性と習得性	心の活動の生得性一習得性を巡り行われてきた議論を紹介	
第4回	言語活動の機能	言語活動の種類と機能について心理学的観点から見る	
第5回	言語活動の障害と形成１	言語活動の障害と形成１：自閉症と判定されたこどもの場合	
第6回	言語活動の障害と形成 2	言語活動の障害と形成２：発達的遅れがあると判定されたこどもの場合	
第7回	言語活動の総括	言語活動の機能を列挙し、教育的有効性と日常生活を考える	
第8回	言語活動の全体	日常場面の言語を通して言語機能を全体的に考える．外国語習得含む	
第9回	視覚活動の障害と形成	視覚活動の障害と形成：乳幼児、視覚障害児の機能形成実験例	
第10回	学習意欲の喪失	乳幼児、大学生、企業人の学習意欲の喪失の実例を通して考える	
第11回	描画行動の障害と形成	描画行動の障害と形成過程について幼児と言語機能障害児の実験	
第12回	新生児，幼児の発達	新生児，幼児の発達過程について代表的な実験例から考える	
第13回	性格・発達検査	性格・発達検査を通してこどもを理解する方法と意味について考える	
第14回	教育活動の概念と方法	Umezuの相互輔生工作を基に教育活動の概念を整理する	
第15回	総括	学校、教育、障害、発達について全体的に考える	

評価方法及び評価基準	平常点評価50%，レポート50%．毎回の授業で小レポートを課する．小レポートの内容や授業中の受講態度等を総合して平常点とする．翌週提出する(自学)大きなレポートは，3回．テーマに応じて論理的に構成されているかを評価する
教材教科書参考書	なし.プリント配布
留意点	心を込めてレポートを書くこと

科目名	教育関係法規		科目コード	W61005	単位数時　間	2単位 30時間	対象学年	2年	開講学期	前期
区分	教職科目	必修	担当者名	大野　拓哉			授業形態	講義		単独
授業の概要	「教育」と「法」という、一見馴染みにくそうな関係にあって、「法」はどのように関わり、どのように「教育」という営為を捉え、支えているかを考える。									
到達目標	日本国憲法をはじめ、重要な教育法規に関して、その概要をつかみ、その要点を理解することを目指す。									

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	教育に関する法	教育関係の法の体系	
第2回	日本国憲法①	26条「教育を受ける権利」	
第3回	日本国憲法②	23条「学問の自由」　他	
第4回	子どもの権利条約①	2条1項、3条1項、7条1項　他	
第5回	子どもの権利条約②	13条、14条1項、28条1項　他	
第6回	教育機関に関する規程①	学校の設置	
第7回	教育機関に関する規程②	学校の目的と編成	
第8回	教育機関に関する規程③	学校評議員制度と学校運営協議会	
第9回	教育課程に関する規定①	教育課程と学習指導要領、教科書	
第10回	教育課程に関する規定②	出欠席の管理、学年、学期	
第11回	児童・生徒の就学率に関する規程①	就学の権利と義務	
第12回	児童・生徒の就学率に関する規程②	生徒指導	
第13回	教育職員に関する規程	学務、免許、服務、分限、懲戒	
第14回	教育行政・財政に関する規程	教育行政の組織、教育財政の仕組み	
第15回	総括	まとめと振り返り	

評価方法及び評価基準	試験のみを評価の対象とする
教材 教科書 参考書	高見茂・開沼太郎・宮村裕子編『教育法気スタートアップ Ver.3.0ーー教育行政・政策入門　』
留意点	法規の条文を参照できるように六法書などを常に持参すること。

科目名	道徳教育の研究	科目コード	W61008	単位数時間	2単位 30時間	対象学年	2年	開講学期	後期
区分	資格関係科目 教職資格科目(中免必修)　選択必修	担当者名	原　圭寛			授業形態	講義		単独
授業の概要	本科目は，道徳教育の理論・歴史に関する知識を提示すると共に，これを基にこれまでに行われてきた道徳教育の実践を批判的に検討していく。授業にあたっては，講義に加えて履修者間相互でのディスカッションなどを通して道徳に関する多様な視点や考え方に触れられるようにする。								
到達目標	1) 「道徳」に関する基礎的な知識を得る。 2) 上記を踏まえて，道徳という科目が有する現代的課題に対して自身の考えを理論的に説明できる。								

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	導入	・本科目のオリエンテーションと模擬授業の日程決め	
第2回	「道徳」とは何か？／ 「道徳」の教育可能性	・教科書1)第1章～第3章に関する講義及びディスカッション	
第3回	日本の道徳教育の歴史	・教科書1)第4章～第5章に関する講義及びディスカッション	
第4回	「社会を担う市民の形成」とは？	・教科書1)第6章に関する講義及びディスカッション	
第5回	「優しさ」と「他者」の尊重／ 環境教育	・教科書1)第7章～第9章に関する講義及びディスカッション	
第6回	人間関係の構築／「価値」の探求	・教科書1)第12章・第16章に関する講義及びディスカッション	
第7回	道徳の授業のつくりかた／ 道徳の授業での発問のしかた	・教科書1)第17章～第18章に関する講義及びディスカッション	
第8回	これまでのまとめ・筆記試験	・第7回までの内容の定着度の確認	
第9回	試験解説・小括	・第7回までの内容のフォローアップ	
第10回	模擬授業(1)	・学生による模擬授業の実施	
第11回	模擬授業(2)	・学生による模擬授業の実施	
第12回	模擬授業(3)	・学生による模擬授業の実施	
第13回	模擬授業(4)	・学生による模擬授業の実施	
第14回	模擬授業(5)	・学生による模擬授業の実施	
第15回	総括	・模擬授業の講評と本科目のまとめ	

評価方法及び評価基準	1) 原則として，全体時間数の2/3以上の出席が求められる。また，初回及び試験実施日，自身の模擬授業の実施日に出席することが求められる。これに反した場合，評価は0点とする。 2) 評価項目及び評価の割合は以下の通りとする。 ・筆記試験：40% ・模擬授業：40% ・授業内の発言及びコメント：20%
教材 教科書 参考書	・以下の2冊を教科書として指定するため，必ず購入のうえ出席すること。授業は下記1)に沿って行いつつ，適宜2)を参照する形で進めていく。 1) 井藤元編著. (2016).『ワークで学ぶ道徳教育』. ナカニシヤ出版. ISBN: 978-4-7795-1029-8 2) 眞壁宏幹編. (2016).『西洋教育思想史』. 慶應義塾大学出版会. ISBN: 978-4-7664-2327-3 ・また，文部科学省「中学校学習指導要領」(平成27年)及び「中学校学習指導要領解説　特別の教科道徳編」（平成27年）も手元に用意のこと。
留意点	・授業をただ聴いて暗記をするだけでなく，提示される問いに対して「自分ならどう考えるか」ということを常に考えながら授業に臨むこと。また，自身の考えを積極的に発言すること。 ・講義は主にPowerPoint等を用いて行うが，スライドはWeb上で配布する。次のアドレスにアップロードするので，受講者は自身で印刷または端末にダウンロードのうえ授業に参加すること。　アドレス：https://researchmap.jp/yoshi0507/資料公開/

科目名	特別活動の研究(教育課程の意義及び編成の方法を含む)	科目コード	W61009	単位数時　間	2単位 30時間	対象学年	2年	開講学期	前期
区分	教職科目	必修	担当者名	西東　克介		授業形態	講義		単独
授業の概要	［キーワード：タテとヨコに人間関係、個人と集団、自律、協働、人権］ 学校の学級活動、生徒会活動、学校行事などが特別活動である。これらの活動が集団の中で、個人の「自律」と協働という２つの能力を向上させていくように、教員・学校は配慮していく。								
到達目標	個人と個人、個人と集団、集団と集団、小さな集団と大きな集団など様々な協働作業の中で、調整と対立が生じる。その中で、個人や集団はどのように考え行動すべきか。生徒個人・生徒集団・教員・教員集団の立場で考えていく。								

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	本講義・展開方法・発表・レポートについて	発表は義務だが、評価はしない。発表内容からレポートの作成。	
第2回	特別活動と教育課程	学習指導要領から特別活動の定義と目標を考察。	
第3回	特別活動の基本的性格	特別活動の基本的性格と教育的意義についての考察。	
第4回	特別活動と各教科、道徳、総合的な学習時間との関連	特別活動と各教科、道徳、総合的な学習時間との関連で、最も重要な点は、目に見える活動を通じて、点数化や評価がしにくい部分の能力向上を目指していることの理解。	
第5回	学級（ホームルーム）活動とは何か	学校の基本単位である学級活動のメリット・デメリットを考察。	
第6回	生徒会活動とは何か	生徒会活動の自主（自律）性のメリット・デメリットを考察。	
第7回	学校行事とは何か	学校行事の集団重視による集団主義文化形成の考察。	
第8回	特別活動と学級活動・生徒会活動・学校行事の関係を考察（１）	「目に見える」・「目に見えない」視点から、３つの活動とその共通点を考察。	
第9回	特別活動と学級活動・生徒会活動・学校行事の関係（２）	西東による学級活動・生徒会活動・学校行事の経験を通して特別活動を考える。	
第10回	学生による発表（１）	指定された字数で、自らの経験を踏まえて自らの特別活動授業計画を作成して発表。	
第11回	学生による発表（２）	（１）の続き：学生の発表に、これを聴講した学生が疑問・意見をぶつける。	
第12回	学生による発表（３）	疑問の工夫と各学生への助言。	
第13回	学生による発表（４）	意見の工夫と各学生への助言。	
第14回	学生による発表（５）	発表のスピードの工夫と各学生への助言。	
第15回	学生による発表（６）	発表時の態度の工夫と各学生への助言。	

評価方法及び評価基準	３つの特別活動から一つを選んでレポート（100%）を提出。
教材 教科書 参考書	適宜、参考書等を講義において示します。
留意点	第1回目の講義に欠席する学生は事前に西東まで連絡をすること。

科目名	生徒指導論(進路指導を含む)	科目コード	W61011	単位数時　間	2単位 30時間	対象学年	2年	開講学期	後期
区分	教職科目	必修	担当者名	西東　克介		授業形態	講義		単独
授業の概要	［キーワード：数値化できない能力、学力］ これまで日本の学校でおきた、またはいつでもおこりうる問題を中心に考えてもらいます。とくに、いじめ問題への理解と備えは、どのうような学校であれ極めて重要です。まずは時間をかけて環境形成し、備えることです。次に、いじめ問題への対応をしつつ、生徒の反応を積み重ねることです。最後に反省をし、新たな視点を見出し行動していくことです。自らの「マニュアル」を徐々に作成していくしかないのです。他の問題のほとんども同様のサイクルを繰り返しながら、生徒指導の能力を高めていくことです。								
到達目標	生徒指導は、教員が生徒に指導・助言を行うことです。だが、教員ができるかぎり、あらゆる生徒に対応できる能力を磨いていこうと思えば、教員が生徒を通じて、生徒から学ぶことを忘れないことです。もちろん、この実践を続けることは、極めて難しい。現時点で、学校現場に出ていない受講者には、せめてこのことを理屈だけでも理解してもらいたい。								

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	本講義の概要・展開方法・ 試験等の説明	８年間の高校現場での経験をもとに、政治学・行政学・教育学の視点で概説する。	
第2回	生徒個人としての課題 （１）将来と生き方	夢あるいは具体的目標を持ち、このことを強く信じて生活していくことが、自分を律し、そして能力を高めていくことを概説する。	
第3回	（２）進路と職業	前回の目標はできれば、生徒が自分の将来の職業と結びつけらるように、担任が少しずつ関連する情報を生徒に提供していく。このことの繰り返しが極めて重要であることを理解する。	
第4回	（３）進路と学習	いわゆる学習は極めて重要だが、部活動や趣味、友人関係においてコツコツと努力する習慣を身につけていくことも重要。なぜなら、その努力する習慣は学習のみならず、あらゆることに応用可能だからです。このことに関わる情報提供を生徒に地道に行っていくことを伝える。	
第5回	個人と集団の課題としての生活 （１）あいさつと集団	あいさつは、意識せずともできるようになることが必要である。細かな点は別にして、このレベルに達していれば、あらゆることに可能性を導きだせる。	
第6回	（２）いじめのおきる背景	いじめがおきる背景を時代の違いで分析する。	
第7回	（３）いじめの社会学的分析	いじめ問題は当事者同士のみならず、第3者が関係し強められることが多い。	
第8回	（４）西東の経験したいじめへの対応	高校の教員時代、人権教育の責任者と生徒指導部のメンバーだったことから、あるいじめ問題に対応責任者として関わった。その時の過程と配慮すべきことの伝達。	
第9回	（５）掃除と生活態度	いじめ問題をはじめとした生徒指導には、まず教員と学級の生徒たちとの関係づくりから行うこと。そのための最も重要な手段が校内の掃除である。	
第10回	（６）性の問題と人権	生徒の性の問題や疑問は、一般に外部情報や友人からの情報に影響を受ける。こうした情報には間違いや偏見のあるものが珍しくない。そうした情報に歪められない基本的な考え方を伝える。	
第11回	教員と教員相互の課題としての指導体制　　（１）ホームルームと担任	学校の基盤は学級である。担任と生徒の地道なホームルーム活動によって、学級は形成されていく。その際の担任の基本的考え方や立場について理解。	
第12回	（２）担任と学年会議	学年は担任・副担任にとって学級を形成していく重要な補助組織である。他学級の担任・副担任からの情報により、担当する学級の調整をしていく。	
第13回	（３）人権への配慮と生徒指導部	生徒指導部の活動は学校の秩序形成に寄与する活動である。その際対象となる生徒に人権配慮を常に考えておくことが必要。	
第14回	プロフェッショナルとしての 教員の資質	プロフェッショナルとしての教員の資質の分析。重要な資質は目に見える資質が目に見えにくい資質によって向上していくことを理解。	
第15回	生徒指導の能力を向上させる 教員の資質	教員の目に見えにくい資質を育む方法の理解。	

評価方法及び評価基準	試験（100%）文章の構成と論理性を中心に評価
教材 教科書 参考書	適宜、参考書等を講義において紹介します。
留意点	第1回目の講義に欠席する学生は、事前に連絡をすること。

科目名	学校カウンセリング （教育相談を含む）	科目コード	W61012	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	2年	開講学期	後期
区分	教職科目　必修	担当者名	立花　茂樹			授業形態	講義		単独

授業の概要	[キーワード：教育相談の機能（開発的・予防的・問題解決的（治療的））、児童・青年期の発達課題、教育相談技法 （非言語的スキル・言語的スキル）、専門家・関係機関との連携、カウンセリング理論、傾聴と受容] 児童・生徒の心の発達と危機や、学校現場で見られる様々な不適応事例について、生徒の心の悩みを聴き、よりよい対処方法を生徒や保護者とともに考えていくための助言・援助活動である学校カウンセリング（教育相談談）の基本的な考え方と進め方および相談技法の基礎を学ぶ。
到達目標	１　学校教育におけるカウンセリング（教育相談）の意義と機能、教師が果たす役割について説明できる。 ２　児童期・青年期の心の発達と危機について説明できる。 ３　事例を通して、学校生活において生徒たちに起こりうるさまざまな問題についての理解を深め、対応策について意見交換することができる。 ３　基本的なカウンセリング（教育相談）の進め方と技法を修得する。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	オリエンテーション 学校における教育相談とは	・講義の概要と到達目標、スケジュール等 ・教職に関する科目として学んでほしい事項 ・学校における教育相談の必要性と役割	
第2回	学校における教育相談の機能と相談の流れ	・心理教育的援助サービスと教育相談の機能の関連 ・教育相談の学校組織への位置づけ ・「コーヒーカップ方式」に見る教育相談の流れ	小テスト
第3回	カウンセリングの理論と基礎知識	・カウンセリングとは何か ・ロジャーズのカウンセリング理論と他の代表的な心理療法の理論	小テスト
第4回	児童生徒理解の方法	・生徒の心理行動を理解するための基礎知識 ・資料収集の方法と資料活用時の留意点 ・心理アセスメントによる方法	小テスト
第5回	面接の進め方	・面接の目的と面接室の整備など面接に至るまでに心がけること ・面接の基本的スキル（言語的および非言語的スキル） ・ロールプレイによる「面接の基本的スキル」の体験	小テスト
第6回	グループ体験の基礎知識	・グループ体験（グループエンカウンターやピア・サポート活動等）の教育的意義 ・体験過程における特徴、効果、実施方法と集団内での活用 ・ガイダンスカリキュラムの実践	小テスト
第7回		・グループ体験プログラムの実際（演習）	小テスト
第8回	保護者との連携と支援	・保護者との連携の必要性 ・保護者からの相談への対応及び保護者支援	小テスト
第9回	関係者・関係機関との連携	・生徒を取り巻く関係者や関係機関との連携・協力関係の構築	小テスト
第10回	教育相談活動の実際（１）「不登校」	・「不登校」の原因論と心理的特徴 ・不登校生徒への教育相談	小テスト
第11回	教育相談活動の実際（２）「いじめ」	・「いじめ」の定義といじめの諸相 ・いじめの被害者のケアと加害者への対応	小テスト
第12回	教育相談活動の実際（３）「学業不振」	・「学業不振」の要因 ・学習意欲を育てるため支援 ・授業に生かす教育相談の視点	小テスト
第13回	教育相談活動の実際（４）「児童虐待」	・「児童虐待」の定義と虐待が成長に及ぼす影響 ・虐待の発見と虐待問題への対応	小テスト
第14回	教育相談活動の実際（５）「発達障害」	・「発達障害」のある生徒の障害特性 ・個別の支援を行うための校内支援体制	小テスト
第15回	事例研究の方法	・事例研究の意義 ・事例研究の方法（一般的な方法と短縮事例法） ・短縮事例法を用いた事例研究（演習）	小テスト

（復習）：主題に関する重点事項を整理し、予習で読んだ教科書の該当部分を読み返

評価方法及び評価基準	小テスト２５%、　演習・協議への参加２５%、　定期試験５０%　の割合で評価する。 〇小テスト：授業開始時に、前時内容に関する５分間テストを実施し、その平均点で評価する。 〇演習・協議への参加：基本的な相談面接の技法や演習及び事例検討等への参加状況（発言・態度・感想カード）により評価する。欠席は２点を減ずる。 〇定期試験：到達目標に掲げた項目について、客観式問題及び論述式問題で評価する。
教材 教科書 参考書	教科書：文部科学省　(2010)『生徒指導提要』教育図書 他に補助資料を随時配布する。
留意点	・授業中の討議に積極的に参加できるように、日頃から児童生徒に関わる様々な問題に関心を寄せ、各種報道から得る情報を加味しながら、自分なりの考えを持つように努めてほしい。 ・予習・復習：シラバスに示す次時の内容をキーワードに予習を進めるとともに、小テストに備えて学習内容の復習に努めること。

科目名	地域研究(歴史)		科目コード	W63001	単位数時　間	2単位 30時間	対象学年	1年	開講学期	後期
区分	教職科目(高一種【地歴】)	必修	担当者名	斉藤　利男			授業形態	講義		単独
授業の概要	（キーワード：日本史と東北史、近代以前の青森と津軽） 本州最北端の青森・津軽という地域を対象に、日本全体の動きのなかで、その歴史と将来の可能性を考える。そのために、日本と青森の歴史の中で、具体的なテーマを選択し、そのテーマに即して、テキストの講読とフィールドワークを組み合わせた授業を行う。									
到達目標	（１）具体的なテーマに即して、日本と青森の歴史の展開とその特徴を、理解できるようになること。 （２）とくに、「日本」の中で青森県の置かれた位置と、地域性について、考えることができるようになること。									

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	オリエンテーション	本授業のねらいを説明し具体的なテーマの選定を行う	
第2回	北緯４０度の北	日本列島の中での青森の位置を知る	
第3回	奥州とむつ	「陸奥国」と青森県の関係	
第4回	アジアの中の青森	世界の中での青森の位置を考える	
第5回	日本史の中の青森（１）	具体的なテーマに即した「日本史の中の青森」の学習（１）	
第6回	日本史の中の青森（２）	具体的なテーマに即した「日本史の中の青森」の学習（２）	
第7回	日本史の中の青森（３）	具体的なテーマに即した「日本史の中の青森」の学習（３）	
第8回	フィールドワーク（１）	テーマに即したフィールドワーク（１）	
第9回	日本史の中の青森（４）	具体的なテーマに即した「日本史の中の青森」の学習（４）	
第10回	日本史の中の青森（５）	具体的なテーマに即した「日本史の中の青森」の学習（５）	
第11回	日本史の中の青森（６）	具体的なテーマに即した「日本史の中の青森」の学習（６）	
第12回	フィールドワーク（２）	テーマに即したフィールドワーク（２）	
第13回	日本史の中の青森（７）	具体的なテーマに即した「日本史の中の青森」の学習（７）	
第14回	日本史の中の青森（８）	具体的なテーマに即した「日本史の中の青森」の学習（８）	
第15回	日本史の中の青森（９）	具体的なテーマに即した「日本史の中の青森」の学習（９）	

評価方法及び評価基準	授業への参加度（３０%）、課題発表（７０%） 到達目標（１）（２）に対応し、目標に到達しているかを、授業への参加度や、課題発表で評価する。発表は、取り組みの姿勢と、内容の両面から評価する。
教材教科書参考書	教科書は使用せず、プリント資料を配付します。
留意点	継続は力です。休まないで、主体的に授業に参加することに力を入れて下さい。

科目名	障害者教育論		科目コード	W71001	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	2年	開講学期	前期
区分	教職科目（特別支援）	必修	担当者名	佐藤　眞一			授業形態	講義		単独
授業の概要	世界や日本の障害児に対する教育の歴史的変遷をたどるとともに、種々の障害の特徴や係わりの基礎的・基本的事項を中心に、特別支援教育制度の推進について理解を深める。									
到達目標	１　世界及び日本の障害児に対する歴史的変遷を説明できる。 ２　種々の障害の特徴について説明できる。 ３　特別支援教育の理念と特別支援教育制度に関する基本的事項について説明できる。									

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	世界の障害児教育	(予習)「全障害児教育法」「1981年教育法」について調べておくこと。 ・世界の障害児教育の歴史（アメリカ、イギリスを中心に） (復習)国別に障害児教育の特徴をまとめる。	
第2回	日本の障害児教育の歴史(1)	(予習)「京都盲唖院」について調べておくこと。 ・明治から昭和20年ごろまでの障害児教育 (復習)授業内容をもとに「我が国障害児教育の歴史」をまとめる。	空年表配布
第3回	日本の障害児教育の歴史(2)	(予習)「養護学校義務化」について調べておくこと。 ・特殊教育から特別支援教育への転換及びｲﾝｸﾙｰｼﾌﾞ教育ｼｽﾃﾑ (復習)授業内容をもとに年表の続きを記入する。	
第4回	就学先決定の仕組みと手続き	(予習)「教育支援委員会」について調べておくこと。 ・就学先決定の仕組みと手続き (復習)就学先決定における「保護者や本人の意見の尊重」についてレポートにまとめる。	
第5回	障害について　特徴と理解(1)	(予習)「健常乳幼児の発達」「視覚障害」「聴覚障害」について調べる。 ・視覚障害、聴覚障害の障害特徴と教育の場 (復習)授業内容をもとに障害特徴と指導上の配慮事項をまとめる。	
第6回	障害について　特徴と理解(2)	(予習)「知的障害」「肢体不自由」の定義を調べておくこと。 ・知的障害、肢体不自由の障害特徴と教育の場 (復習)授業内容をもとに障害特徴と指導上の配慮事項をまとめる。	
第7回	障害について　特徴と理解(3)	(予習)「病虚弱」「LD、ADHD、ASD」の定義を調べておくこと。 ・病虚弱、発達障害の障害特徴と教育の場 (復習)授業内容をもとに障害特徴と指導上の配慮事項をまとめる。	
第8回	障害について　特徴と理解(4)	(予習)「二次障害」について調べておくこと。 ・その他の障害と二次障害 (復習)二次障害防止のポイントをまとめる。	
第9回	通級による指導	(予習)「通級指導教室」について調べておくこと。 ・通級による指導の対象と指導内容と方法 (復習)通常学級（在籍校）との連携についてレポートにまとめる。	
第10回	個別の教育支援計画と個別の指導計画	(予習)「長期にわたる支援計画」について調べておくこと。 ・個別の教育支援計画の策定と個別の指導計画の作成 (復習)二つの計画の違いについてまとめる。	レポート提出
第11回	自立活動	(予習)「自立活動」について調べておくこと。 ・自立活動とは　・自立活動の目標と内容（6区分26項目） (復習)自立活動の指導の留意点についてまとめる。	
第12回	交流及び共同学習と居住地校交流	(予習)「居住地交流」について調べておくこと。 ・「交流及び共同学習」実施上の留意点　・居住地校交流とは (復習)交流及び共同学習及び居住地校交流の現状と課題についてまとめる。	
第13回	特別支援学校のセンター的機能	(予習)「センター的機能」について調べておくこと。 ・特別支援学校のセンター的機能とは (復習)特別支援学校が果たすセンター的機能の具体的内容をまとめる。	
第14回	校内支援体制の整備	(予習)「学校における支援体制の整備」について調べておくこと。 ・校内委員会の主な業務と役割 ・特別支援教育コーディネーターの役割	
第15回	インクルーシブ教育システムの構築	(予習)「サラマンカ声明」について調べておくこと。 ・インクルーシブ教育システムの構築と特別支援教育 (復習)インクルーシブ教育システム構築の現状についてまとめる。	レポート提出

評価方法及び評価基準	予習を生かした授業における意見交換（２０%）、レポート（３０%）、試験（５０%）により総合的に評価する。
教材 教科書 参考書	教科書：独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所（2015）『特別支援教育の基礎・基本 新訂版 共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築』　ジアース教育新社 他に、適宜資料を配布する。 なお、①特別支援学校　教育要領・学習指導要領、②特別支援学校学習指導要領解説　総則等編（幼稚部・小学部・中学部）、③特別支援学校学習指導要領解説　自立活動編（幼稚部・小学部・中学部・高等部）は常時手許において参照できるようにすること。
留意点	紹介する参考図書を積極的に購読し、「特別支援教育」への関心を深めてほしい。

科目名	知的障害者の心理Ⅰ		科目コード	W21003	単位数時間	2単位 30時間	対象学年	2年	開講学期	前期
区分	教職科目（特別支援）	必修	担当者名	齋藤　繁			授業形態	講義		単独
授業の概要	臨床心理学の基礎英論と方法について学び、臨床心理査定法や心理医療の実際について種々の事例によって理解を深める。さらに、福祉心理学的問題の理解と福祉臨床における臨床心理学的支援技術について学習する。									
到達目標	臨床心理学の基礎を成す発達心理学や人格心理学等の理論を知り、心理査定法や心理療法の基本的な考え方や技術を学習する。関連して発達障碍児（者）や高齢者の臨床心理学的支援についても学ぶ。									

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	臨床心理学の基本的理解	心理学的知識と技術の臨床的応用	
第2回	臨床心理学の目的と方法	自己と文化・社会的環境への適応	
第3回	臨床心理学の対象と領域	障碍の理解と接近方法	
第4回	問題の分類と概説	不適応行動の分類	
第5回	様々な臨床事例	ライフサイクルとライフスタイル	
第6回	臨床心理学支援の実際	セルフラビティとセラピスト支援	
第7回	発達理論Ⅰ	ゲゼル、シュテルン、マーラー	
第8回	発達理論Ⅱ	ウイニコット、カンバーグ	
第9回	人格理論Ⅰ	フロイト、ユング、アドラー	
第10回	人格理論Ⅱ	ロジャーズ、コフート、エリクソン	
第11回	人格理論Ⅲ	フランクル	
第12回	適応の理論	適応と不適応、無適応、非行	
第13回	知的障碍者の心理学的理解と支援	知的障碍の心理学的理解、指導とケア	
第14回	脳障碍者の心理学的理解と支援	脳障碍者の心理学的理解、指導とケア	
第15回	高齢者の心理学的理解と支援	高齢者の心理学的理解、指導とケア	

評価方法及び評価基準	平常点評価20%、期末試験80%　とする
教材教科書参考書	川瀬生裕他『心とかかわる臨床心理ー基礎・実際・方法ー（第3版）』ナカニシヤ出版
留意点	新聞・テレビなどの情報に関心を持ち、関連性を考えるようにする。

科目名	知的障害者の心理Ⅱ		科目コード	W21004	単位数時　間	2単位 30時間	対象学年	2年	開講学期	後期
区分	教職科目（特別支援）	必修	担当者名	齋藤　繁			授業形態	講義		単独
授業の概要	臨床心理学査定法心理療法の実際について、種々の事例によって理解を深め、具体的な接近方法や心理診断・治療の方法について学ぶ。また心身障碍児（者）の心理学的理解と臨床心理学的支援・技術について学習する。									
到達目標	心理学査定、心理治療学について基礎的理解を深め、臨床的に役立つ知識・技術の習得を目指す。また心身障碍者の理解と指導の実際についても学ぶ									

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	心理査定法について	心理検査の理念と概念	
第2回	心理アセスメントの目的	現象型からと原型の把握	
第3回	心理アセスメントの方法	行動観察法、内省法、面接法、テスト法	
第4回	情報の収集と整理	行動面接、行動観察・テスト情報	
第5回	心理検査の種類	知能・性格・運動・作業検査など	
第6回	検査の実施と結果の解釈と査定	テスターと検査環境、マニュアルの使用	
第7回	投影法	ロールシャッハ、TAT、CATなど	
第8回	心理療法の歴史	メスメルの磁気桶から認知行動治療法まで	
第9回	心理療法の理論	フロイト、ユング、ロジャーズ	
第10回	心理療法の種類とバッテリー	個別・団体検査、同種検査の組み合わせ	
第11回	心理療法のプロセス	初期から終末期までの症候の推移	
第12回	心理療法の効果と限界	心因性反応と器質性疾患	
第13回	心身障碍児（者）の心理療法	客観テスト実施の困難と結果の信憑性	
第14回	心身障碍児（者）の治療効果の評価	客観的評価の必要性	
第15回	高齢者の面接、カウンセリングの方法	認知症者の認知能力の査定と面接・カウンセリング	

評価方法及び評価基準	平常点評価20%、期末試験80%　とする
教材 教科書 参考書	川瀬生裕他『心とかかわる臨床心理－基礎・実際・方法－（第3版）』ナカニシヤ出版
留意点	古典的な方法は示唆に富んでいる。個々の事例研究が基本である。

科目名	知的障害者教育論		科目コード	W71006	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	2年	開講学期	前期
区分	教職科目（特別支援）	必修	担当者名	山崎　誠悦			授業形態	講義		単独
授業の概要	[キーワード：歴史、教育原理、就学先決定の仕組み、学習指導要領、教育課程、教育内容と指導方法、交流・共同学習、キャリア教育] 我が国の特別支援教育に関する教育制度や知的障害教育史上の主な人物に取り上げながら、欧米諸国と我が国における知的障がい教育の変遷について概観し、知的障害教育における現状と課題について考察する。また、知的障害特別支援学校や知的障害特別支援学級における教育活動を進めるにあたり、児童生徒の心理的特性や学習上の特性、教育課程の編成、教育内容、指導方法等について解説する。さらに、知的障害児の自立と社会参加を目指す教育活動を進める上での基本的問題について検討する。									
到達目標	（１）知的障害教育の変遷課程や特別支援教育制度の変遷課程及び知的障害教育の対象や就学先決定に関する仕組み等について理解する。 （２）知的障害のある児童生徒の心理的特性、学習上の特性について理解する。 （３）知的障害特別支援学校や知的障害特別支援学級における教育課程及び特徴的な指導方法に関する基本的な事項について理解をする。 （４）知的障害教育における指導に関しての実践的知識や指導・支援の方途について習得する。									

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	オリエンテーション 知的障害教育の歴史（１）	各回の授業内容と進め方及び本授業の評価方法について説明する。 欧米における知的障害児・者の問題成立から知的障害教育の成立・発展過程を概観し、欧米諸国における知的障害児教育の変遷について解説する。	
第2回	知的障害教育の歴史（２）	我が国における知的障害児教育の成立・発展過程について、特に戦後を中心に公教育における教育制度の整備状況や教育実践の変遷について理解を深めるとともに、知的障害児教育の現状と課題について考察する。	
第3回	知的障害の定義・原因・分類・発見	知的障害の用語の概念の変遷課程を取り上げるとともに、世界保健機関や米国における知的障害の定義等を紹介し、我が国における知的障害の定義及び状態像、障害の程度等について解説する。さらに、知的障害の原因と発見について言及する。	
第4回	知的障害児の心理的特性	知的障害児の障害の程度による身体面及び運動面、知覚面、行動面当の発達の状態像や基本的心理的特性について説明する。特に、コミュニケーションの発達に関して、知的機能面や対人関係の発達面、養育環境面等の視点から取り上げ解説する。さらに、知的障害児の問題行動の種類についてその原因、対応について検討する。	
第5回	就学先決定の在り方と教育的支援	知的障害のある子どもの就学先決定の仕組みの変遷課程を概観し、就学先決定の在り方について言及する。さらに、知的障害児に対する教育の場と提供可能な教育機能について解説するとともに、知的障害特別支援学校や特別支援学級における適切な教育的支援について考察する。	
第6回	教育目標と教育課程	知的障害特別支援学校の目的及び教育目標について確認しながら、知的障害教育における教育課程の基本的な要素について説明する。さらに、特別支援学校学習指導要領を基に作成される知的障害特別支援学校の小学部、中学部、高等部及び知的障害特別支援学級の特徴的な教育課程編成について解説する。	
第7回	領域と教科を合わせた指導（１）	知的障害教育の特徴的な指導形態としての領域・教科を合わせた指導について説明する。特に「日常生活の指導」・「遊びの指導」を取り上げ、指導のねらいや指導内容、指導計画、指導上の留意点を解説する。さらに、指導事例を紹介し、日常生活の指導・遊びの指導の理解を深める。	
第8回	領域と教科を合わせた指導（２）	領域・教科を合わせた指導としての「生活単元学習」と「作業学習」を取り上げる。生活単元学習と作業学習の指導の変遷課程を取り上げながら、指導のねらいや指導内容、指導計画、指導上の留意点を解説する。さらに、指導事例を紹介し、生活単元学習・作業学習の理解を深める。	
第9回	知的障害教育における指導上の留意点	知的障害教育における適切な教育支援に当たっての指導上の基本的留意点について説明する。特に、学習への動機付けや個人差への配慮、過剰学習、個の教育的ニーズに対応するための実態把握としてのアセスメントの方法等を取り上げ解説する。	
第10回	知的障害児の教科別の指導	教科別の指導について、知的障害児の学習特性及び教育的対応の留意点、教科指導と教育課程との関連について解説する。さらに、知的障害者特別支援学校と特別支援学級における各教科の指導事例を紹介し、知的障害教育における教科別指導について理解を深める。	
第11回	知的障害児の自立行動	知的障害特別支援学校の小学部、中学部、高等部における自立活動について、自立活動の目標や内容、指導計画の作成と内容の取り扱い、指導方法、指導上の留意点等を解説するとともに、他領域との関連についても言及する。さらに、自立活動実践事例を紹介し、自立活動の基礎的・基本的事項について理解を深める。	
第12回	個別の教育支援計画・個別の指導計画	個別の教育支援計画及び個別の指導計画について、策定の目的や支援の目標、内容を取り上げ、作成手順及び作成の留意点について解説する、また、個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成例を紹介し、個別の教育支援計画及び個別の指導計画について理解を深める。	
第13回	重度・重複障害児の指導	重度・重複障害の用語の意味を確認しながら状態像を説明し、重度・重複障害児の理解を深める。また、重度・重複障害児教育の変遷課程に触れながら、指導のねらいや指導内容、指導計画、指導上の留意点について解説する。さらに、指導事例を紹介し、重度・重複障害児に対する教育的支援の基礎的・基本的事項について理解を深める。	
第14回	交流及び共同学習	交流及び共同学習の意義について説明するとともに、交流・共同学習の形態や内容、実施計画、実施上の留意点、評価等について解説する。さらに、知的障害特別支援学校や特別支援学級における実践事例を紹介し。交流及び共同学習の理解を深める。	
第15回	知的障害児のキャリア教育・進路指導・就労	キャリア教育の概念・意義等を取り上げ解説するとともに、知的障害教育におけるキャリア教育の意義について解説する。特別支援学校の小学部・中学部・高等部のねらいや内容等について解説する。さらに、キャリア教育、進路指導、就労に関する実践事例を紹介し、知的障害児に対するキャリア教育と進路指導について理解を深める。	

評価方法及び評価基準	定期試験５０％、課題レポート３０％、授業への参加度２０％ 定期試験では、到達目標に対応して、知的障がい教育における基本的な内容や実践的知識、指導・支援の方途の理解についての習得状況、答案の構成、自分の考えを論理的に記述しているかについて評価する。 課題レポートでは、授業後に出題する課題について、授業内容を踏まえ、自分の考えを論理的に記述しているかについて評価する。
教材 教科書 参考書	『特別支援教育概説　改訂版』　佐藤泰正　編/学芸図書株式会社
留意点	今日のインクルーシブ教育の構築をめざした教育の取り組みの中で、知的障がい児の個々の教育的ニーズに対応した個別の教育支援計画や個別の指導計画に基づいた指導について理解を深める。さらに教育と福祉について考察するとともに、知的障がい児にとっての「幸せとは何か」について考えて欲しい。

科目名	肢体不自由者教育論Ⅰ		科目コード	W71007	単位数時間	2単位 30時間	対象学年	2年	開講学期	前期
区分	教職科目（特別支援）	必修	担当者名	佐　藤　眞　一			授業形態	講義		単独
授業の概要	肢体不自由教育の歴史、現状、児童生徒の理解、教育課程の編成、指導の内容・方法等に関する理論や知識を学び、肢体不自由教育の基本について理解を深める。									
到達目標	１　肢体不自由教育の歴史的変遷や現状及び対象となる児童生徒の障害についてまとめる。 ２　肢体不自由教育における自立活動の重要性や主な指導内容について説明できる。 ３　肢体不自由教育における教育課程編成に関する基本的事項について説明できる。									

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	ガイダンス、肢体不自由教育の理念	(予習)「クルュッペルハイム」について調べておくこと。 ・クルュッペルハイムの理念 (復習)高木憲次が肢体不自由教育に及ぼした影響をまとめる。	
第2回	肢体不自由教育の歴史	(予習)「柏学園、都立光明特別支援学校」について調べておくこと。 ・整形外科学の発展と肢体不自由教育 (復習)講義内容を基に我が国の肢体不自由教育の歴史をまとめる。	
第3回	肢体不自由教育の現状と仕組み	(予習)「27年度青森県の特別支援教育」で学校・在籍数等を調べておくこと。 ・就学制度と特別支援学校数、学級、在籍児童生徒数 (復習)講義内容を基に県内の肢体不自由者の教育の場をまとめる。	
第4回	肢体不自由児の理解	(予習)「肢体不自由」の定義を確認しておくこと。 ・起因疾患と障害の理解 (復習)肢体不自由教育における起因疾患と変遷をまとめる。	
第5回	肢体不自由の障害特性と教育の意義	(予習)「肢体不自由の障害特性」について調べておくこと。 ・肢体不自由の障害特性に応じた教育の役割 (復習)講義内容を基に学校でできるねらいや配慮事項をまとめる。	
第6回	教育課程Ⅰ 教育課程編成の基本	(予習)「教育課程の意義」について調べておくこと。 ・教育課程編成の手順と評価 (復習)教育課程編成に関する法令についてまとめる。	
第7回	教育課程Ⅱ 重複障害者等に関する教育課程の取扱い	(予習)「重複障害者等に関する教育課程の取扱い」を調べておくこと。 ・学校教育法施行規則と学習指導要領における規定 (復習)講義内容を基に各規定のポイントについてまとめる。	
第8回	教育課程Ⅲ 特別支援学校における教育課程編成	(予習)「教育課程の類型化」について調べておくこと。 ・多様性に応じた教育課程編成の工夫 (復習)肢不特別支援学校の教育課程編成での疑問についてレポートにまとめる。	
第9回	教育課程Ⅳ 小・中学校における教育課程編成	(予習)通常学級や特別支援学級での困り感について予想しまとめておくこと。 ・通常学級や特別支援学級における適切な学習 (復習)教育課程編成における両者の比較についてまとめる。	ﾚﾎﾟｰﾄ提出
第10回	肢体不自由教育の指導Ⅰ　自立活動	(予習)「自立活動」の目的と内容について調べておくこと。 ・肢体不自由の特性に応じた自立活動の具体的内容 (復習)肢体不自由に関連が深い内容と配慮事項をまとめる。	
第11回	肢体不自由教育の指導Ⅱ　身体の動き	(予習)「筋緊張、関節可動域、拘縮、運動発達」について調べておくこと。 ・肢体不自由の特性に応じた身体機能を高める学習 (復習)姿勢と運動の指導における注意事項をまとめる。	
第12回	肢体不自由教育の指導Ⅲ　コミュニケーシ	(予習)肢体不自由児のｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ障害について調べておくこと。 ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝを豊かにする指導内容と補助的手段の活用 (復習)自立活動のｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ区分の５項目についてまとめる。	
第13回	肢体不自由教育の指導Ⅳ　医療的ケア	(予習)「医療的ケア」について調べておくこと。 ・医療的ケアの内容と実施に係る制度 (復習)医療的ケアを実施するための研修制度についてまとめる。	
第14回	肢体不自由の特性に応じた指導	(予習)「ﾑｰﾌﾞﾒﾝﾄ教育、動作法、図と地」について調べておくこと。 ・感覚ー運動、視知覚に働きかける学習 (復習)フロスティグ視知覚発達検査についてまとめる。	
第15回	まとめ	(予習)「肢体不自由者教育総論Ⅰ」での資料や小テストを整理・確認すること。 ・肢体不自由者教育論Ⅰの要点 (復習)改めて要点を確認して試験に備える。	

評価方法及び評価基準	予習を生かした授業における意見交換（２０％）、レポートやポイント確認小テスト（３０％）、試験（５０％）により総合的に評価する。 なお、小テストの実施回については、授業の進行をみながら事前に連絡する。
教材教科書参考書	安藤隆男・藤田継道編著（2015）　『よくわかる肢体不自由教育』　ミネルヴァ書房 他に、適宜資料を配布する。 なお、①特別支援学校　教育要領・学習指導要領、②特別支援学校学習指導要領解説　総則等編（幼稚部・小学部・中学部）、③特別支援学校学習指導要領解説　自立活動編（幼稚部・小学部・中学部・高等部）は常時手許において参照できるようにすること。
留意点	紹介する参考図書等を積極的に購読し、「肢体不自由教育」への関心を深めてほしい。

科目名	肢体不自由者教育論Ⅱ		科目コード	W71008	単位数時　間	2単位 30時間	対象学年	2年	開講学期	後期
区分	教職科目（特別支援）	必修	担当者名	佐藤　眞一			授業形態	講義		単独
授業の概要	肢体不自由者教育総論Ⅰで学んだ基本を踏まえ、授業見学や映像視聴及び演習等を通して、肢体不自由教育に求められるより具体的な知識、技能、教育観について理解を深める。									
到達目標	１　肢体不自由教育の実践を見学し、特別支援学校や特別支援学級での学習活動についてまとめる。 ２　肢体不自由教育における個々の実態に応じた具体的学習課題を選定することができる。 ３　肢体不自由教育の課題や展望に関する基本的事項についてまとめる。									

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	肢体不自由特別支援学級や特別支援学校の見学	(予習)当該肢体不自由特別支援学級や特別支援学校について調べておくこと。 ・特別支援学級や特別支援学校における肢体不自由児の学習活動 (復習)疑問や感想をまとめ、レポートを作成する。	見学のポイント確認 レポート提出
第2回	見学のまとめ	(予習)提出した疑問に関連する資料について調べておくこと。 ・見学での疑問や感想から学ぶこと（発表と協議） (復習)自分が気づかなかった疑問と感想についてまとめる。	レポート提出
第3回	自助・介助具の理解と活用	(予習)肢体不自由児の自助・介助具や装具について調べておくこと。 ・肢体不自由教育における自助・介助具の機能と活用 (復習)適切な車椅子の援助方法についてポイントをまとめる。	
第4回	教材・教具の開発と工夫	(予習)肢体不自由教育における教材・教具について調べておくこと。 ・自作教材・教具の作成と活用 (復習)教材・教具作成上のポイントについてまとめる。	
第5回	指導の実際Ⅰ 脳性まひ	(予習)「脳性まひ」について調べておくこと。 ・特別支援学校における脳性まひ児の学習の実際 (復習)講義内容を基に脳性まひの指導上の配慮事項をまとめる。	
第6回	指導の実際Ⅱ 進行性筋ジストロフィー	(予習)「進行性筋ジストロフィー」について調べておくこと。 ・特別支援学校等における筋ジス児の学習の実際 (復習)講義内容を基に筋ｼﾞｽﾄﾛﾌｨｰの指導上の配慮事項をまとめる。	
第7回	指導の実際Ⅲ 重症心身障害(1)	(予習)「健常乳幼児の発達」に関する資料について調べておくこと。 ・領域別発達段階表を活用した重症心身障害児の実態理解 (復習)領域別発達プロフィールの作成手順についてまとめる。	
第8回	指導の実際Ⅳ 重症心身障害(2)	(予習)「最近接領域」について調べておくこと。 ・発達課題から導き出される具体的指導内容 (復習)領域別発達プロフィールから指導内容を考えレポートする。	
第9回	指導の実際Ⅴ 二分脊椎、先天性骨形成不全	(予習)「二分脊椎、先天性骨形成不全」について調べておくこと。 ・特別支援学校等における先天性骨形成不全の学習の実際 (復習)講義内容を基に先天性骨形成不全の指導上の配慮事項をまとめる。	レポート提出
第10回	キャリア教育と進路指導	(予習)「今後の学校におけるｷｬﾘｱ教育・職業教育の在り方について(答申)」 ・キャリア教育の定義と意義 (復習)講義内容を基に進路指導の充実のための要素についてまとめる。	
第11回	肢体不自由教育に関連する福祉制度等の活用	(予習)「身体障害者手帳、育成医療、就学奨励費」について調べておくこと。 ・肢体不自由教育を支える諸制度とその活用 (復習)身体障害者手帳のメリットについてまとめる。	
第12回	関係機関との連携	(予習)「療育、医協連携、個別の教育支援計画」について調べておくこと。 ・特別支援学校と隣接医療機関との連携の実際 (復習)肢体不自由教育における関係機関との連携による効果をまとめる。	
第13回	インクルーシブ教育システム構築における肢体不自由教育	(予習)「インクルーシブ教育システムの構築」について調べておくこと。 ・肢体不自由に応じた合理的配慮の観点 (復習)期待されてるコーディネーターの役割をまとめる。	
第14回	肢体不自由教育の課題と展望	(予習)「障害者差別解消法」について調べておくこと。 ・障害者基本法の改正等と学校教育 (復習)本人や保護者の気持ちになって肢体不自由教育の在り方についてまとめる。	
第15回	まとめ	(予習)これまでに授業で配布した資料や小テストの内容を整理・確認すること。 ・肢体不自由者教育論Ⅱの要点 (復習)改めて授業内容の要点を確認して試験に備える。	

評価方法及び評価基準	予習を生かした授業における意見交換（２０％）、レポートやポイント確認小テスト（３０％）、試験（５０％）により総合的に評価する。 なお、小テストの実施回については、授業の進行をみながら事前に連絡する。
教材 教科書 参考書	安藤隆男・藤田継道編著（2015）　『よくわかる肢体不自由教育』　ミネルヴァ書房 他に、適宜資料を配布する。 なお、①特別支援学校　教育要領・学習指導要領、②特別支援学校学習指導要領解説　総則等編（幼稚部・小学部・中学部）、③特別支援学校学習指導要領解説　自立活動編（幼稚部・小学部・中学部・高等部）は常時手許において参照できるようにすること。
留意点	紹介する参考図書等を積極的に購読し、「肢体不自由教育」への関心を深めてほしい。

科目名	視覚障害者教育総論		科目コード	W71015	単位数時　間	1単位 30時間	対象学年	2年	開講学期	後期
区分	教職科目（特別支援）	必修	担当者名	佐々木　正晴			授業形態	講義		単独
授業の概要	視覚障害者にその機能形成を図る心理学的手法を探る．受講生はアイマスクを着用し，視覚障害状況を体験し障害状況の特性を捉え，個別特性に応じた援助行動を探索する									
到達目標	受講生ひとりひとりが，視覚障害者教育の状況を捉え，教育活動のあり方について構想を作り，個々の障害状況に対してその機能形成を図る実験的手法を作成する力をつけること									

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	眼疾患とは（全盲，弱視）	医学的・生理学的観点から視覚障害状況を分類する	
第2回	視覚障害者のコミュニケーション	視覚障害状況における言語機能活動の特性について考える	
第3回	盲学校の教育課程	盲学校の独自性と普通学校との共通性を整理する	
第4回	視覚機能形成の具体例	視覚障害状況とその機能形成過程に関わる実験例を紹介する	
第5回	視力検査と保有視覚の活用	視力検査で示された保有視覚を活用する手法について述べる	
第6回	視覚障害児の認知と指導	視覚障害児の認知特性に基づく指導の実際と留意点	
第7回	視覚障害幼児と保護者への早期支援	視覚障害幼児の生活空間を全体的に捉え、将来との結びつきを考える	
第8回	個別の指導計画と教科支援計画，総括	視覚障害状況の個別性を踏まえた教科活動支援の実際、総括	

評価方法及び評価基準	平常点評価50%，レポート50%．毎回の授業で小レポートを課する．小レポートの内容や授業中の受講態度等を総合して平常点とする．翌週提出する(自学)大きなレポートは，3回．テーマに応じて論理的に構成されているかを評価する
教材教科書参考書	なし.プリント配布
留意点	心を込めてレポートを書くこと